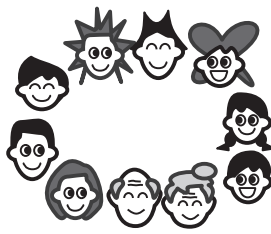


津谷歯科医院 口腔ケア新聞

NPO法人
訪問歯科診療
を広める会
賛助会員



令和6年1月号
発行人 津谷歯科医院
院長 津谷良
住所 岡山市中区海吉1807-14
紙面に関するお問い合わせは下記まで
電話：0120-779-418
配信代行：訪問歯科診療を広める会

皆さん、こんにちは！いかがお過ごしですか？

津谷歯科医院、院長の津谷良です。

噛む力は自分の体重と同じ位の大きな力が奥歯にかかります。入れ歯の人でも10~30キロになります。10キロはおせんべい、30キロはフランスパンを噛む時です。入れ歯に使われている人工歯は硬質レジンと言うプラスチックです。毎日の食事で天然歯や銀歯と噛み合うと、徐々に人工歯はすり減り、噛み合わせが低くなっていきます。使い慣れて良く馴染んでいる入れ歯でも、医学的には5年程度で修理又は新しく作り直しを検討するのが一般的です。「もう歯がないから歯科検診は必要ない」という方もいらっしゃいますが、入れ歯を良好な状態に保つには、定期的な検診とメンテナンスがとても重要です。今回は、『入れ歯の定期検診が必要な理由』をお届けします。

1. 歯ぐきは徐々にやせる！

歯が抜けてしまった部分の顎の骨は、噛んだ時の刺激が伝わらなくなるために徐々に吸収(消失)して、その部分の歯ぐきも痩せて、低くなっていきます。そのため、本来ならピタッと密着しているはずの入れ歯と歯ぐきの間に隙間ができて合わなくなります。当たって痛くなるのはこれが主な原因です。定期検診でこの隙間をいち早く発見して調整すれば、痛くなることもなく、常に良好な状態で使用できます。入れ歯を持っている場合、健常な方なら6ヶ月に1回、要介護の方なら3か月に1回を目安に定期検診を受けてください。

2. 残っている歯を失うリスクが！

プラスチック製の入れ歯の表面には無数の小さな穴があるため、食べ物や細菌等の汚れが付きやすく、適切に洗浄できていないと口臭や肺炎の原因となります。汚れが溜まりやすい口腔環境は、残っている歯が歯周病やむし歯になって抜けてしまうリスクが高くなるので、定期的に歯科衛生士による専門的クリーニングが必須となります。

3. 入れ歯の人工歯は摩耗する！

入れ歯の人工歯はプラスチック製のため、徐々に摩耗して入れ歯が合わなくなります。定期的に修理・調整を行わないと、歯や歯周組織だけでなく、顎の関節に悪影響が生じてきます。

訪問歯科の依頼内容の約80%が入れ歯に関するものです。「痛い」「割れた」等、すぐ気付けるものだけでなく、下記のような状態も入れ歯の修理や調整が必要です。ぜひチェックしてみてください。

- あごを動かすと入れ歯がカタカタ鳴る
- を閉じてから強く噛まないとい歯が当たらない
- いつも決まった位置が先に当たりその後全体が当たる
- 歌を歌うと入れ歯がずれる
- 内炎ができた
- 入れ歯の金具が舌に当たる
- 入れ歯を入れる時に、きつくて入れにくい
- 上の入れ歯が落ちてきたり下の入れ歯が浮く感じがする
- 麺類が食べにくく、体が前かがみになる
- イクラ等が良く噛めず、□からこぼれる

◆ 要介護の方の場合、総入れ歯でも必ず3か月に1回の定期検診を受けましょう ◆

口腔ケア新聞の発行にあたって 

ここ数年、外来患者さんやそのご家族から訪問診療のお問い合わせやご依頼を受けるケースがとても増えてきました。小さなご病気されてしまったことがキッカケで、寝たきりになってしまわれたりして、「いつもお元気でいいですね」と話をしていただけなのに…。そんなことが続いたので、これは本格的に訪問診療に取り組まなければいけないかなって、強く思うようになりました。

そこで取り組みの一環として、要介護者の歯と口に関する情報を地域の介護に携わっている方にお届けしようと考え、口腔ケア新聞を毎月1回発行しています。

津谷歯科医院

診療時間 9:00~12:30/14:00~18:30
(土曜日は16:30まで)

診療科目 歯科 小児歯科

休診日 木曜・日曜・祝祭日

院長 津谷良

岡山市中区海吉1807-14

☎ 0120-779-418 FAX 0120-779-413

